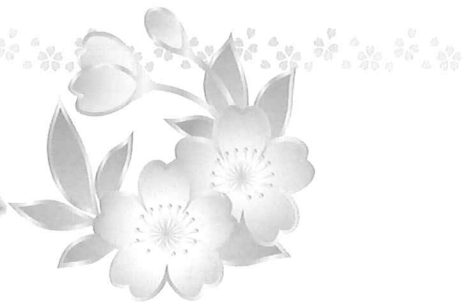


ギョウスト
GKS俳句65!!
ハムの会へ



毎月九日
お肉でも
食しながら、
俳句を二句ほど
ひねろうか

宗匠の句



鳥渡る人に離郷の荷の少し
元通り手紙を畳む雪の果
寒星へつばさの白き鉛細工

●S47 卒 対馬康子

亡き人の折り鶴一羽柳行李^{やなごうり}
敗走の鎌倉遠き落葉路
マニキュアの指の先より新芽出づ
●S34 卒 頼則紗頼

さいわいもみんなで分けて里桜
奥入瀬のうすむらさきの若葉雨
小金魚のその小ささの涼しさよ
●S37 卒 岡崎洋々

根分けする妻の背中に光満つ
西空に鎌の月あり葱坊主
寒灯の鉄路を照らす山の駅
●S33 卒 大西無郷

暑を忘れ無心に削る茶杓かな
散紅葉中空の糸に引っ掛かり
苺ジャム君の残せしレシビかな
●S45 卒 井上まき女

茶を愛し酒を嫌わず聴て春
黄落のすずかけ鈴を懸け残し
咲きのぼり梅雨明け告げるたちあおい
●大西千女

初春や心のひとと復た出會ひ
一葉落ちふと振り向けば君がいて
狐火に騙されてみるか闇に入る
●S47 卒 佐々木松翠

仕合せは心に宿る蜃気楼
竜巻は大和にもあり五月空
銀杏散るジュータンのような街の音
●S33 卒 井上榮々峰

正月や父を思ひて対局す
初もうで妻も笑顔の帰り道
●S47 卒 土居行松



介護のカギひとつ見つけて秋立ちぬ
降る雪の静謐男子弓を引く
虫食いの紬解きし彼岸かな

●S47 卒 原久美子

またひとり花道去りぬなごり雪
なつかしき文に手を止め暮れ早し
仰ぎ見る星降る里の去年今年

●S49 卒 高桑南菜

月も持つ齢といふもの草の花
木守柿古きみやこの如く在り
消しゴムで消せぬ字の跡春の雪

●S50 卒 坂田光義

凧や遠き昔の吹き溜まり
雪女郎スカイツリーをひとまたぎ
白子酒 壺中之天地 羽化登仙

●S50 卒 豊澤壊殻

夏木立知らぬどうしの雨宿り
子燕は巢より大きく育ちけり
麦わら帽小さなバケツ川遊び

●S50 卒 和田芝女

砂嵐アラブの春をうずめけり
箱庭の國遙かから憂う夏
眠れぬ夜雷雨の後の闇深し

●S50 卒 中山髭丸

豺やまいぬの祭りぞ満天星どうだん血に染まり
鷹化して鳩となる日や闇薫る
人殺む夢やかわたれ雪の中

●S52 卒 神崎峻坊

庭先のふくら雀がしな作り
早梅の香を辿りて山歩む
早緑の穂先笑うやふきのとう

●S52 卒 白川夕帆

花火待つテトラポットにかかる波
腕をはふとべぬ羽蟻をそっと吹く
釣り人の横に寄りそふ菜花かな

●S52 卒 松田欣女

糸杉の渦に吞まれし冬の午後
蒼穹に抱かれし我が身笑う春
眼の奥の刻止まりたり春霞

●S52 卒 安川文旦

穂をなでてざわわと初夏なつへ風走る
トマトもぐラジオ体操響く朝
星仰ぐ早一年の除夜の鐘

●S52 卒 矢野梨花

寒波来る姿勢に曲がりなかりしか
生きているあかしの松茸食べてみる
猫なんかよんでもこない漱石忌

●S53 卒 長尾らいむ

八重桜 堇 菜ノ花 総武線
冬空に城を造るやプラタナス
季は早く記憶は遠く年の春

●H06 卒 市川ねこむすめ

連絡先

岡崎洋 (S37卒)

okazaki@o2m-law.com

松田欣末子 (S52卒)

m-kimiko@u01.gate01.com

長尾みどり (S53卒)

jade@zb3.so-net.ne.jp